



觀音靈驗記卷之四

目錄

西園二十卷 空穗寺

洛陽女書 泉涌寺

西園二十卷 總持寺

洛陽女書 法性寺

西園二十卷 勝尾寺

洛陽女書 法成寺

西園二十卷 仲山寺

洛陽女書 女寺 金堂

西園二十卷 揚州 洛水

洛陽女書 女寺 洛水



西金女一書
舟列宮徳寺



うしひらり口室
 本堂ニクニク
 同巻より文化
 十一年まで八百五
 十一子あつた又
 がさくしと
 りり

舟波海桑田の宮徳寺所長三人
 不ろ八家成程あり性若
 系和小殿澤とらる舟師ありこれありし
 舟師ありきんあんぬらんがん
 しく三十三人ある時舟師
 人との舟師とさびく
 の像を記さむ切あつ
 いた。またまわくわく
 舟師ありきんあんぬらんがん
 舟師ありきんあんぬらんがん

まうらて佛師へ人海とて後とうらこわ
群むらとらり家よあり家形りそのとらさるを
この仏師お遺あり京都ゆくりのてか
けを傳りてとて文成られとてて傳たふ
わのむお伝書ゆとてとてとてとて
ら傳るあふとてあんの傳よあぢの二紙
あり。とてとてとてとてとてとてとて
くなるゆとてとてとてとてとてとて
くもんあふとてとてとてとてとてとて

この時とき文ぶん道だうふとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて

わのりわのりとてとてとてとてとてとて
わのりわのりとてとてとてとてとてとて

△浪陽女なげやうにょ香泉かうせん涌ゆう寺じ

新編のりうし富のり

あらの親おん音ねは唐たうれま家け家け帝ていの化けなり
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて

とあり日本にいつてせめふりて建曆元年
の。かのとのまじし九年。さな。後祚と
りる。ゆつあり。字は不わさ。元後由地回
の。今七集あて。はまよみそん。十家
ゆき。妙法たよ。さ。あてとげ。十
百身のらた。飯田のま繼にまごひ。元後
教とよあむ。十八よて。後法その建曆五年
入るん。と然わりの。百日の。元祚ありと
ら。後祚。の。の。十月。入る。建曆

え。の。小海。解き。その。因。り。た。家。縁。も。り
らん。は。や。さ。の。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下
ま。の。あ。み。を。元。家。の。は。ま。の。縁。と。他。も。後。あ
と。の。い。つ。ち。の。因。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下
家。後。み。つ。の。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下
ま。の。い。つ。ち。の。因。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下
志。元。て。後。と。り。の。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下
後。祚。と。り。の。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下
元。祚。と。り。の。縁。と。り。の。な。り。て。と。後。祚。今。下

なうらうりきむらじつとあへば二人のなよ思
 けらうりて。暮れ花好の月。Soyakoto
 毎くともあがりめごとくしにら路
 あるものいふあはれおとらしく。暮らひつるを
 れハ此のふ矢ぬらうた母のあひひあきと
 け二人の宿。りくかごなへたもえ法すくま
 ありき家あまのいおはむいあてあは
 ともおむらうらうらうらうらうらうらうら
 とうらうらうらうらうらうらうらうらうら

たらうりて。暮れ花好の月。Soyakoto
 毎くともあがりめごとくしにら路
 あるものいふあはれおとらしく。暮らひつるを
 れハ此のふ矢ぬらうた母のあひひあきと
 け二人の宿。りくかごなへたもえ法すくま
 ありき家あまのいおはむいあてあは
 ともおむらうらうらうらうらうらうらうら
 とうらうらうらうらうらうらうらうらうら

何そあゆむに... 櫻枝を帯けぬる家
とせまをもせん。流れ刺す人せ写留し登
ふ色られ枝あうづばははのり。登れとよぞ
うるよとあやし見世山乃神女と振留し
采女色をば枝微をも自らとく繁のまよ
ゆしあんとくと恥めん。そくする体変てこそ
まゝぬる。いよめんやその色をん人あや
みうにうらうらくあけめれ親うらむを
時の公也殿上人様よりあてて夫婦うらむ

と試のぞきしうらむを。父母のまの振るう
船して海客にありうらむ。あまの桃花あ
つたれ露とぬぐんで。垣よりあまの一枝の露
白あがとくなり。ある人うらむとがあづら
て玄宗皇帝れ世に枝れま寧ろはる人
らあまると玄宗の威はぬらしてみりり
あまの軍とうらむ。はるうらむうらむと
後まもろしうらむ。あまの家の威威
寧ろはる人うらむ。あまの家の威威

のに相^{あひ}知^りたり。むしごとく。玄宗みあせてと
 みよしよ。袖の中れ舞^ま舞^いの玉^{たま}あふら海^{うみ}を
 うるの芙蓉^{ふぶき}のよあぐ。みふめと何^{なに}やよ
 まよひくうは。きざくうきおととあき
 あつに雪^{ゆき}はひひもまよそくう海^{うみ}とまに
 して。南^{なん}の花^{はな}よ碎^{くだ}とよめ夜^よハよもす
 かう席^{せき}とあうとくもく西^{さい}ふ作^{やく}作^{やく}あとな
 くはあぐのぞくのおうらよのころ松^{まつ}の
 らせ世^よのころりよとよまよめとぞく下^{した}

大^{おほ}きのみぞれくと死^しの夢^む矢^やさげむの
 とあうまとなく。かみ中^{なか}めき玄宗^{けんげん}ハ。藤^{ふじ}
 山^{やま}あ御^{おん}幸^{さき}うつて揚^{やう}貴^き妃^ひよ。看^{けん}蒙^{もう}雅^{やく}夜^やの
 舞^{まい}とあうせて。大^{たい}林^{りん}をさる屋^やのよれくさき。こ
 よめと死^しとあうけめくうあめあ原^{はら}あか
 共^{とも}敷^のあうて物^{もの}よあさう。らそ死^しか舞^{まい}と
 めくうされて蜀^{せき}山^{さん}へあらしせめあるよへ一^{いつ}紙^し
 りあらたれど。さうとあひうらうつる商人^{しやうじん}あ
 ね衣^えのまひさき。きういかりうらき。あうとて

學うまひくをあゝる車おめられて
あらそふへ下けいさうくくあら
しうな家ありさ海そあつくはる
れわらあひまごふ。あんはくえう
とありけいさうなまはあ町を
れまつくらあをたよそよる
とせあひらとれ。修をはつ
力修。たはくあつてまそとあ
これあゆぞとあひありた
あ

かことぬせ城めひさあつむく。比
來てそみれとあらうまあそ。修
あそむとあひあひ世の政道
めうふあへ。貴地よ死と
れそあよむひ城之れあ死
お家これとあふくあそ
かどとあふくあそ。とあ
あようびあひとあうらそ
あうらそ車の中あああ

うりしき申くくぬゆりものあり
うらんらんありよのち。そのらんらん
世ぬせだ突つとる。蘇河陸軍とくあゆ
まを。などあくあくあらつたおのりさ
からしめだ。まへにらむ百のれん
ひつとせまつてあはらふらさく
せめあゆがして。初はよふらさく
まじり。まじり。まじり。まじり
初はよふらさく。まじり。まじり。まじり

とりのこが。あつたおのりさく。まじり
ゆれ改まを。まじり。まじり。まじり
素宗空常のぼつた。まじり。まじり。まじり
く。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり
まじり。まじり。まじり。まじり。まじり
まじり。まじり。まじり。まじり。まじり
く。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり
地海山園通室園とあり。まじり。まじり
れ。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり

海へよたるとは統制のせんりなるり
 免ふやうのせんとなづく後よ仙居あり
 とも。傍前まゝの家浦とのより建保さ
 れ。お州刺使後又信下信房。ひら
 前よあつぬ。さるるよりそひがら信也。
 四寺りりありまゝ
 百夜もあゆみとらへんや
 うごやがむとまんごくふま

西金二番

梅洲総持寺



あかかごり
 六星中堂又
 四面同春
 文化十一
 九百二十二年
 あり

津由緒持奇三人の影の山蔭中納言
鳥羽のむつねに法師因巻く。おぼろ
陽成天皇御時より神皇正統記に
とふ人の。浪海公の代孫。その
蔭中納言とらふ人なり。とらふ
て流ありき。おぼろのむつねに
後れ徳祿のむつねに一人は
成る。とらふ人なり。とらふ
おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。

い山蔭中納言れ初少な海成海中みせ
し。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
波風あはれ。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
歎の何なる。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
変定。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
後物。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
見え。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
思ひ。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。
とらふ。おぼろのむつねに。おぼろのむつねに。

ていふのさうり龜の甲めいこむてな
れうんまうのあま生のおあうあまため
忍法あつるしとさつとくは是さうさう
親自をそれ方便ありとよあうびさう
その子とばあ仲よさうさうらつて合城つく
志あうしとあうまんとさうさうさうさう
のあさうあの子細あれさあ
まうあうとさうさうとさうさうさう
た小使ひあり。大鉢は井と名はく

小衣よと僧んぐうあふ少令二百あとあ
海に小井院とくけて雲よとたあ
はぬる小清涼山佛母院一の香よあは是
あやせんえのよあ御井とれとあてま
いよれう紙のの山よああ小清涼山
蘇東南れととあななるにあり。その中
教よあうとさうなつよあ一人の僧人
とさうて。この佛母院の伝とつさう
さうよはさうさうさうさう入滅とあ

御井是と云ゆへ、さし百由りを、まと山ふ新
ま。靈まと目んへまとんとん。危ろ常こう
まひあ。かつく先法のま。しに新地へは礼
成なむ。御井法とあるは、いまいうく。を
御推考しより長三丈六寸周
四人八寸。形に方形の先目半圓形あり
守護後系れ。物色なる層れ子の午親を
の像とけらりて。その父の宿所ともならん
ふまはあつくゆりあらず音まらずは其の

あらずあつくゆりといふはならずあくをあらず
しうんととり申納云長とありは然然地小
まままま。物家のあまれせりといふ。元元元元
三月二日。故由み下向ける古民集りてい
まま。いのの浦小島よあらり後といふ
あらりといふの人あまれとならずもあらず小伴
地をいらやしる也。浦人とおらず是と
るりといふ也。三竹乃結あり。ことくの

三巻 四十四
 一
 思ひよふすそより所井を介とかな
 由けしとあのみまれゆらひとあふ
 中納言いさくおんとして教女あつり
 さうとあくらまんとすりに挨拶は
 のふりれ縁持ぢあしあまは体息の
 うめり。あくらうくお湯してあらん
 教よあづらひ中納言あやとあしと
 足ふふじいしてさく。さく一あさと
 あふよたまんとわりの教あらくあふ
 三

一。あみやうふそ徳とあくら一他
 とつとつ徳よたせん。あは是とあ
 かり。とつとつあ。あふ教あふ
 いよあぬ今のあはは。あまあ
 よさゆつに遠くせんとなひ。中納言
 教れせんあふ系統してあ新
 まんぼろ腕のあふ小あ換は徳の
 ろあはくいつく。あはあはとあ
 ながあにあふあふあふあふあふあふ
 三

うりんと佛師とと會し。子自ら下
向に。門がうし十室をさるるの音響あり
髪にこもる重き髪をかき置けり家
その神いやま。志うれとて果ては
とくは像とつくはし。一日一夜のるお
長入すの十二面觀音と云る。今故寺れ心
まのまゝあん先物りまといはせ置ひ二十日の
る別不よりりして。この觀音の像と
違ふ。天和二年六月十八日のあら

き室中不空阿闍梨にて。長者の觀音やあ
り。またと三交まで。子あられ。佛よ
善くし。物りさ。かあれ。基へ
り。佛不と好む。日の南はさうしてさ
ぬ。中納言のそ兒は。不と。んま。は。二
のせん。もの。果。像。ま。海。の。ま。み
ら。二。が。さ。る。君。さ。う。と。か。す。い。ま。さ。り
を。は。ら。う。さ。る。よ。中。納。言。ま。さ。り。ま。か。り。ま
生年六十八。子息七男七女あり。回心して

依^つ盤^{ばん}と遠^{とく}る^る松^{しょう}列^{りょう} 洛^{らく}下^か院^{いん}總^{そう}持^ぢ寺^じ是^こ
志^し水^{すい}を^をま^まか^から^ら中^{ちゆう}綱^{きやう}云^い生^{せい}生^{せい}れ^れま^ま
き^きら^らえ^えの^のや^やと^とけ^けれ^れお^おと^と母^ぼま^まん^んお^おん^ん強^{きやう}
う^うの^のし^し遠^{とく}る^る今^{いま}の^の洛^{らく}陽^{やう}東^{とう}山^{さん}志^し田^{でん}志^し
今^{いま}も^も長^{ちやう}壽^{じゆう}寺^じこ^これ^れの^の

お^おら^らま^まて^てな^なう^うこ^この^の中^{ちゆう}に^に現^{げん}そ^そこ^こに^に下^か
を^をし^しけ^けれ^れち^ちら^らふ^ふこ^この^のま^まぬ^ぬい^いあ^あ

洛陽^{らくやう}東^{とう}山^{さん}志^し田^{でん}志^し寺^じ

此寺より千八百五十年の事あり

又^{また}は^は性^{じやう}持^ぢ寺^じ觀^{くわん}世^せ音^{おん}が^がら^られ^れる^る像^{ざう}は^は性^{じやう}持^ぢ寺^じ

ら^らま^まん^んも^もく^く夏^げ下^かを^を通^{とほ}る^るは^は中^{ちゆう}の^のま^まの^のり^りや^やえ^え
ま^まん^んふ^ふし^して^てみ^みみ^み三^{さん}め^めん^ん長^{ちやう}三^{さん}つ^つ目^めの^の
山^{さん}性^{じやう}持^ぢ寺^じの^の三^{さん}面^{めん}の^のう^うら^らた^たを^を三^{さん}が^がら^ら差^さ
神^{かみ}太^{たい}八^{はち}面^{めん}ん^んご^ごい^い天^{てん}廿^に二^にあり^り圓^{えん}れ^れう^うへ^へり^り女^{にょ}
み^み面^{めん}の^のり^りを^をて^て二^に十^{じゅう}八^{はち}面^{めん}の^の像^{ざう}に^に中^{ちゆう}像^{ざう}ハ^ハ三^{さん}が^がら^ら
三^{さん}層^{さう}の^の者^{もの}ハ^ハ觀^{くわん}世^せ音^{おん}ハ^ハ貪^{こん}味^みの^の激^{げき}者^{もの}ハ^ハ三^{さん}毒^{どく}を^を
ま^まく^くひ^ひし^しま^まう^うん^んの^のり^りち^ちら^らう^うなり^り。三^{さん}面^{めん}の^の
四^し觀^{くわん}者^{もの}ハ^ハ天^{てん}の^の女^{にょ}の^のり^りに^に後^ご強^{きやう}者^{もの}は^は三^{さん}が^がら^ら
と^とり^りの^のり^りを^を會^{かい}歡^{くわん}神^{じん}。凡^{ぼん}洛^{らく}陽^{やう}神^{じん}。陰^{いん}の^のり^り

やしてあり。いめの神れむありうりあり。二
ちあぶやう二世の夜いとるこくが
それよりしてちの二神と二宮荒神と
たのけ。一切れ修物のそあへ。まこ改修
城二及とあへ荒神とまのつ。その元を
修く。あさごまん城あすすせり。こと
あんさの夜うりつさびうみんことり。
あつものこくの契像れゆへ。むう法
性ちた通公。甲子二宮本。お病物のとこ

いふなまへぬるを。お新物まう。海へあ
まふらら。所平念あり。それよりこ
れおへ。男女甲子。衆の元。まんあん城
いのり。あつこ。せり。つこ。あつ。ねり。
うと。り。つ。く。この法性。ち。た。通。公。御
建を。し。あ。お。と。あり

かのあつ。あつ。の。り。れ。あ。新。れ。あ。つ
し。あ。じ。生。死。の。う。み。を。あ。ま。く。い。せ。あ

西の寺の書
勝尾寺



きんざらどらり
三里本堂七畝
四畝開基より
文化十一子まじり
千八十六年おる

浄土勝尾寺の子年をえどぶいれさうハ
少の同族建立なり。此ハ寶永八年九月
日向島に由り奥日。産屋同族よりりて
つゝさくおつさうまをいなるも。きんざら
うあらぶ。是れり八日向権北本あり。祿
多ハきりりそまのん。同族とあつら
や子豊と南と西とあつらてられとじ
おさい子うあつちよら。きんざら
仙傳ありしと十月十五日。きんざら

買葉法臨と名とむるの二のありし
 ある敷きとて元ゆめと名のみ。目本國
 務尾寺の子弟をえあんの利生とて
 なし。あんぢらそまされといのま。あまて
 後名を後とびあまのあまらふしそま
 ころ目本あまむひ能法あまあま
 あり。あるあゆめあま目本あまわさく
 ひらとつづ。あまとつづ。あまて
 後名あまらふしこれあまのつて。目本とて

和歌あまらふ。あまあま。金鼓を渡すあまの
 什物と。あまらふにまらふあまらふ。
 あまの務尾寺。あまらふとらふか
 する大宰府。あまらふとらふか。あまら
 てあまらふしむとあまら

ありくあまらふあまらふあまらふ
 やとあまらふあまらふあまらふ
 △洛陽下之普成寺
 九条書院ありの文記
 十一と九百八十九とあり
 日本書紀の巻九十六の文記

言やうあり。そのゆへいと見よ。心も
慈光大師へ下世由觀智教人好。俗性
三皇母。母子とら。このよ。慈光むまの
日。の父母れ家。は東家。ふむ。いて。らん。人
めとあ。と。後。う。ん。屋。高。ま。隆。と。師。也。し。
いと。ひ。あ。ふ。う。て。慈。光。つ。お。と。よ。も。後。め。あ。う
後。ん。と。む。う。を。う。づ。う。ま。あ。り。し。杖。持。智。也。
世。り。れ。が。ま。れ。天下。め。と。う。て。あ。む。あ。
と。う。に。仁。王。入。十。代。代。的。天。王。法。能。を。え

らひて。能。也。と。後。う。う。の。り。と。め。ん。也。あ。り
め。と。あ。う。ま。ら。慈。光。大。師。ふ。せ。ん。と。あ。う
て。は。う。一。宮。中。又。あ。し。兼。和。又。子。成。智。集。り
後。た。し。の。ふ。船。と。海。海。も。う。ふ。と。死。に。た
と。ま。ふ。ふ。慈。光。よ。う。り。て。鬼。界。得。よ。ら。う。づ。く
鬼。神。の。船。れ。よ。る。能。ん。て。よ。後。ら。び。ま。を
と。ま。さ。ら。び。る。を。な。め。て。あ。の。ま。り。う。り。
船。申。れ。人。鬼。乃。奇。一。死。よ。ま。あ。し。ま。し。を
う。し。あ。り。て。慈。光。む。その。と。死。慈。光。大。師

慈光集
卷之二

南無大慈悲觀世音菩薩と稱へば
きんさくら。きんあんがらうさうらうの
なまのそこおねり。権とらりのみや
うをさるあつて。本の志不しらにむひ
かとあくはるふをさる。愚せんさ
あひがらうにキもあき御。あはせらう
船人めんくはららなをり。業とあさ
しんさびら。と記ふ慈念大師さ記ふ
つれまよとこつれ観るひあさら休
毎年

あて作のあむ海もく。持念まのまつられく。
大慈悲はうげふら。日本にうま強ひて大改
大信長公の附属。まそのら。徳和天
望まふおちのふ考に業。あひ。お道
美愛まよりあ大改大信長公の地ありし
とあふあ永久元年。八月廿九日。一
あて城真寺とありらう。あま
うらあひもあさ。あまらうあまら
かすはれはあさ。あまらう

二十四番

後列 仲山寺



からとてうらうらに
不堂又乃四面
基より文化十一年
とふ百八十七年
より一統よ
み先生志やあゆ
五ふりし
泉去算れ

仲山寺御長
を以て因基と
傳多し
又月よ
つきて
くご
入
聴
仏
二

像ハ。何派派。原を露。一思ハ十面ハ像あり。左
ハ右子自割。なをしあひ。そのら仲山寺
圓基ありて。軒石小葉動しあつたり

世をよそとてこよそとて中山の
てくまのるをれらりよのよ

△洛陽二十四番東寺夜堂。この内はあり文記十一
は雲ハ。弘法大師ハ圓基之。御堂ハあつり。
八幡ハ御海有。高寺の橋あり。八月十日ハ所
獄ありて。雲ありよあつて。法華橋ありなど。

けとちあせりれ幸あり又とれ寺ハ西門
法燈珠門と云あり。じりハはる海よ。
鬼神とてけると按津お軒光のらり
せり。さる人の源みつふ。こまことあつり
ぬ。あつとあつり。ゆるとわ。りり色
そのおとんやうん。茶もくく。と一。あ。
何とせんよのおそ後。くたにねん。あ。
とあつらて。らば忍の霧らりも。とせ。
うつらるる。あつり。あつり。あつり。

乃の舟橋の中をあつてわしをよさるゝり
 食糧小を我のたれ。比の子の親考を
 大船あつたよましくしてあつてひく
 海より。碇の用山聖賢の師の徳を
 不ありはる像と法よりあつてあつて法
 し。いん像と法よりあつてあつて法
 孫よ。いん像と法よりあつてあつて法
 親考とあつてあつてあつてあつて法
 し。あつてあつてあつてあつて法

忽ようせぬ。像れ枝。あやまふは
 像。あつてあつてあつてあつて法
 おつてあつてあつてあつて法
 橋の太の神れ地現るよ。いん像と法
 比の海。ういん像と法よりあつてあつて法
 上河原。あつてあつてあつてあつて法
 海より。あつてあつてあつてあつて法
 比の海。あつてあつてあつてあつて法

舟橋
 海
 比の海

ありありめらりしれりし海して。月夜雲
 空得たり首とてぬけ。徳和とりのり
 ありおあひだとりよとあし。まうりり。
 ありおえの国七月とる。大北農の業よ
 ろりてなる。ありお業全まてたりのつ
 がぬ。そのらち浪の申よ東真のそり
 ごととるげまし。おとつとまうりゆりぬ
 浪陽やとりのりてまのりらん
 ありおまじのうられまらんかん

西三十二又壽
 橋り流あり寺



仲山ありり十二里
 本堂ありり西同基
 あり文化十一年と千
 百七十七と後く丹波
 橋り流あり寺
 ありあり又十二西觀あり
 ありありありありあり

稽摩^{こりま}の^の後^ご多^たあ^あせん^{せん}と^と由^ゆ々^々ん^んあ^あん^んれ^れさ^さふ
智^ち徳^{とく}を^を子^こ乃^のは^はり^りの^の記^きあり^{あり}。性^{せう}善^{ぜん}。蘇^そ入^{にゅう}入^{にゅう}爲^ゐ
お^お母^{はは}い^いう^う若^{わか}然^{ぜん}お^おら^らし^し母^{はは}。上^{じやう}更^{ぜい}き^きよ^よし^し爲^ゐ
と^と不^ふ爲^ゐ海^{かい}ま^ま。ち^ちの^のま^まに^に投^なげ^げ又^{また}也^{なり}の^のり^り乃^の
り^りと^と小^{せう}立^た。投^なげ^げ又^{また}事^{こと}女^{にょ}あり^{あり}。下^げ男^{なん}と^と密^{みつ}
通^{つう}に^に。と^とあ^あら^らま^まれ^れて^てか^かと^とね^ねの^のひ^ひ。投^なげ^げ又^{また}
と^とち^ちの^の出^でし^し。麻^まが^がら^らよ^よそ^そと^とる^るひ^ひ。も^もと^とで^で
小^{せう}山^{さん}伸^{しん}不^ふり^りて^て。下^げ男^{なん}ち^ちの^の記^き不^ふよ^よち^ちの^の
引^ひと^とひ^ひと^と矢^やと^とも^もめ^めて^てい^いし^しく^く。象^{さう}馬^ばの^のゆ^ゆけ^け

若^{わか}と^とは^はと^とり^り久^くと^とも^も今^{いま}ま^まさ^さか^から^ら記^きる^る。は^はい^い
康^{かう}あ^あ。そ^そと^とち^ちの^のあ^あら^らん^んと^とあ^あの^の一^{いっ}矢^やそ^それ^れ
命^{めい}と^との^の命^{めい}。投^なげ^げ又^{また}の^のり^りと^とま^まれ^れら^らし^しと^と
あ^あら^ら。新^{しん}ハ^ハゆ^ゆま^まら^らし^しく^くま^まて^て。騰^{たう}り^り食^{じき}
あ^あの^の包^{ほう}と^とも^もひ^ひて^て。三^{さん}つ^つれ^れを^をと^とも^もひ^ひて^て食^{じき}と^と
三^{さん}つ^つお^おり^りて^てあ^あら^らし^しく^く是^{これ}お^おあ^あよ^よ。と^とも^もひ^ひて^て食^{じき}と^と
二^につ^つの^のな^なと^とも^もひ^ひて^てり^りと^とま^まれ^れら^らし^しく^く。あ^あら^らし^しく^くと^とあ^あら^らし^しく^く
奉^{ほう}新^{しん}久^くし^しく^く。と^とも^もひ^ひて^て食^{じき}と^とも^もひ^ひて^て食^{じき}と^と
れ^れと^とあ^あら^らし^しく^く今^{いま}ま^まさ^さか^から^ら記^きる^る。ゆ^ゆに^につ^つれ^れを^をと^とも^もひ^ひて^て食^{じき}と^と

家の尻孫とくひひねのこにとみつき
 二つのな食とくひひしてまるとれて鮭
 りみおらりて。二つのなきく躍りて下男の
 弓矢とくひひとら。まじつれ太形よりて
 下男の喧とくひひも。ね又二太と
 て家へ海ももさうら。まあとおひ
 おと。二太の子りともくひひつくとく
 二太ちのかうもぬふ。まおら。ね又
 登壇とくひひ。寺と立千のな

然れ像とあ重とて。冥後とさくむ。二秘
 神地自神とす像は像頭並に小あ
 ららり

ありまこや何まねきかどく家くの
 ずおとうふう母とらりまらり

△活陽井又高長寺

松東海人々やありつる
 文徳十百と八百赤七の像

そましくとれまらんがさんハ一系院
 濟字長徳口子はら乃えいぬれとて

卷四

卷四

卷四

觀音靈驗記卷四

Handwritten notes in a cursive script, possibly a library or collector's mark, located in the bottom left corner of the left page.

